

没後100年記念

明治の刀工

武器ではなく、芸術品。

2018年
4月21日(土) - 6月17日(日)

休館日：月曜日 ※ただし、4月30日(月)祝開館、5月1日(火)休館
開館：午前10時 - 午後5時 ※入館午後4時30分まで
主催：公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社
観覧料：一般800(600)円、大高生500(400)円、中学生以下無料
※()内は20名以上の団体料金

貞一 月山

がっさん さだかず

同時代の収集家 村山龍平のあゆみ

 香雪美術館
KOSETSU MUSEUM OF ART

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1 TEL 078-841-0652 <http://www.kosetsu-museum.or.jp/>

伝統月山に生きる

超絶技巧

月山貞一(弥五郎、1836~1918)は明治から大正時代に活躍した刀工です。

7歳で大阪の刀工・月山貞吉の養子となった貞一は、16歳の時には父と合作して見事な刀身彫刻を施し、彫刻巧者の片鱗を見せました。奥州出羽の波打つような綾杉肌に新たな伝統を加え、大きな功績を残しました。

働き盛りであった40代に廃刀令の憂き目にあいますが、その技術力は高く評価され、近隣の神社からの受注を得て、廃業を免れました。

明治26年(1893)のシカゴ万国博覧会をはじめ、各博覧会や展覧会に出品し、明治39年(1906)には刀工で初めて帝室技芸員に任じられました。

香雪美術館のコレクションを形成した村山龍平は、月山貞一に刀剣を作らせ、それを鍛えて、るところを見学にも行っています。

本展では、この月山貞一の作品を中心に、

村山龍平が収集した刀装具コレクションを紹介します。

また、初めは刀装具を制作しながらも、廃刀令の影響で

花瓶や香炉といった室内装飾品などの制作に転向した

正阿弥勝義などの作品を併せてご紹介します。



月山貞一



[表面]月山貞一「短刀」明治43年(1910) 村山コレクション
[裏面]①月山貞一「刀」明治35年(1902) 個人蔵 ②月山貞一「刀」慶応3年(1967) ③月山貞吉「刀」元治元年(1864) ④月山貞勝「短刀」大正14年(1925) ⑤正阿弥勝義「昇龍図鐔」元治2年(1865) 清水三年坂美術館蔵 ※②・③・④は大阪歴史博物館蔵

親子三代の名刀集結

息子 月山貞勝作

父 月山貞吉作

月山貞一作

〔関連イベント〕

講演会

「刀工・月山家を受け継いで」

月山貞利氏

(奈良県指定無形文化財保持者・全日本刀匠会顧問)

日時:2018年4月29日(日)午後1時~

定員:50名

※当日午前10時30分より整理券を配布します

ギャラリートーク

会期中の毎週土曜日、午後2時から
学芸員によるギャラリートークを行います。

※講演会、ギャラリートークの聴講は無料ですが、別途展覧会の鑑賞券が必要です。

〔交通案内〕

阪急「御影」駅南改札口より東南へ徒歩5分 JR
「住吉」駅より北西へ徒歩15分 阪神「御影」駅より
市バス19系統で「阪急御影」下車徒歩5分



香雪美術館

KOSETSU MUSEUM OF ART

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1

Tel 078-841-0652

<http://www.kosetsu-museum.or.jp>

次回展予告

〔御影〕企画展 生誕170年・没後100年記念
「鈴木松年 今蕭白と呼ばれた男」
7月10日(火)~9月30日(日)

〔中之島〕中之島香雪美術館 開館記念展
「珠玉の村山コレクション ~ 愛し、守り、伝えた ~
II・美しき金に心をよせて」4月28日(土)~6月24日(日)

